

環境影響評価審査書

69 （仮称）関東鉱産採石場増設事業

I 総括事項

（仮称）関東鉱産採石場増設事業（以下「本件事業」という。）は、既存採石場の隣接地である愛甲郡清川村煤ヶ谷字土山3056番イ号他4筆に339, 597平方メートルの採石場（以下「実施区域」という。）を増設するものである。本件事業は、神奈川県内の骨材自給率の向上と安定供給を図るとともに、地場産業として地域経済に貢献することを目的とし、その事業内容は土石を採取して破碎・選別を行い、各種の碎石製品の出荷をしようとするものであって、総採取岩量は660万立方メートル、採取期間は約20年間を予定している。

実施区域は、丹沢山地の東側にある仏華山の南に位置し、標高340メートルから620メートルの間にあり、そのほとんどは傾斜区分30度以上の急斜面で構成されている。また、同地域の現存植生は、コナラ、アカシデ等の落葉広葉樹林が優占し、ホンドザル、ホンドジカ等多くの種のは乳類が生息するなど自然豊かなものとなっており、最も近い民家からは約1.5キロメートル離れている。

実施区域を含む周辺地域は、神奈川県立丹沢大山自然公園特別地域に指定されている。また、同地域は、「かながわ新総合計画21」によれば、5つの県土構想の一つである「水源地域総合保全整備構想」の水源地域内に位置しており、「神奈川県環境基本計画」においても、①雨水の保水性が高い水源かん養地として重要な地域、②がけ崩れ等の土砂災害の発生の危険性が高い地域、③豊かな生態系が保全され野生動植物の生息にとって重要な地域等の評価がなされている。

周辺地域の状況をみると、実施区域の南西側は、県民の水道水源となる宮ヶ瀬ダム湛水域に隣接するとともに、県道64号（伊勢原津久井線）が川弟川に沿って延びている。また、その両側にはハイキングコース等自然を活用した多くのレクリエーション資源が分布している。

本件事業は、このような状況の中で既存の採石場の隣接地に増設しようとするものであることから、事業の実施に当たっては、次の視点から環境への影響に配慮する必要がある。

第一は、実施区域を含む周辺地域からは、多種多様な動植物の分布が確認されている。したがって、大規模かつ長期間にわたる採掘作業による伐採や地形の改変により、これらの動植物の生息生育及び水源かん養機能への影響が懸念される。

第二は、土石の採取、破碎及び選別に伴う粉じんの発生の影響や隣接している宮ヶ瀬ダム湛水域への濁水の流入による影響が懸念される。

予測評価書の作成に当たっては、これらの内容や以下の個別的な審査結果を十分踏まえ適切な対応を図る必要がある。

II 個別事項

1 大気汚染

予測評価書案では、粉じんの発生が懸念される毎秒5.5メートル以上の風速が時間出現頻度で0.3パーセントであることを粉じんの影響が少ない根拠の一つとしてあげている。

しかし、日出現頻度では6.6パーセントと必ずしも少ないとは言えない状況となっており、本件事業にあっては、粉じんの発生が大規模かつ長期間にわたることから、表土仮置き場の緑化等の飛散防止対策について更に検討すること。

2 水質汚濁

予測評価書案では、降雨により発生する採掘区域からの濁水対策について沈砂池を設置することとしている。しかし、実施区域は宮ヶ瀬ダム湛水域に隣接していることから、沈砂池の構造等を含む濁水対策について更に検討するとともに、そこからの排水の濁水濃度の確認方法についても明らかにすること。

また、関連施設（既存採石場内）に設置される表土仮置き場等からの排水による影響も懸念されることから、実施

区域及び関連施設（既存採石場内）での排水路の設置、構造、機能等についても具体的に検討すること。

3 地象

予測評価書案では、採掘の対象となる地山は「崩壊等の原因となる亀裂がない岩盤からなる堆積岩等」としているが、地層の分布と掘削の方向との関係によっては、部分的な落石等が生じる可能性があるため、掘削開始後の安全点検及び落石防止対策について検討すること。

4 動物

予測評価書案では、猛禽類や大型哺乳類など広い行動圏を持つ動物の生息状況について、平成7年に行った調査を基に予測評価をしている。その後、平成9年3月には「丹沢大山自然環境総合調査報告書1997」が公表された。

そこで、この報告書の鳥獣に関する広域的な保護と管理についての提言を把握し、ホンドリカ個体数の急激な変化を防ぐための防鹿柵の設置等の適正な生息環境の保全対策について検討すること。

5 植物

（1）緑化計画について

予測評価書案では、緑化計画について、「植物生育基盤の整備には十分留意し、周辺の自然植生と調和した樹種を選定する」としている。

しかし、植栽に際し客土を行う採掘区域各部分の造成方法等の生育基盤の整備や草食獣による食害防止方法等の生育管理の記述が不十分であることから、更に詳細に検討し、具体的に記述すること。また、植栽樹種の選定に当たっては、潜在自然植生である常緑広葉樹の積極的導入を検討すること。

（2）注目すべき植物の移植計画について

ミスミソウやイカリソウ等の注目すべき植物の移植計画については、種の生態に応じた移植時期、移植方法、維持管理等の詳細を明らかにすること。

6 景観

予測評価書案では、仏果山ハイキングコースの展望地点からの景観について、「もともと人工的なイメージを含む景観特性である地点であることから景観の変化は少なく、評価目標は達成できる」としている。

しかし、当該展望地点から改変区域が直接視野に入るので、仏果山ハイキングコースの利用者数の状況も把握した上で、掘削法面の一段の高さを低くし植栽による修景効果を高めるなどの対策を検討すること。

7 安全

実施区域を出入りする車両が利用する県道64号（伊勢原津久井線）は、通学路であり、また、観光地の宮ヶ瀬ダムへの厚木市側からの唯一のルートとなっている。そのため、通学時や観光シーズンの交通状況を明らかにするとともに、実施区域の出入口での交通混雑について予測を行い、関係機関との調整を含め交通安全対策について検討すること。

8 その他

（1）伐採木の有効利用について

予測評価書案では、採掘区域で伐採される立木の発生量が明らかにされていないことから、その発生量を明らかにするとともに、土留使用、堆肥化等の有効利用についても検討すること。

（2）低周波空気振動について

本事業は長期にわたり、発破を用いた土石採取を行うため、発破に伴う低周波空気振動による周辺的生活環境への影響を明らかにし、適切な対応を検討すること。